

『第99号』 ***図書館システム***

「図書館システム」と聞いてイメージできる方は多くないかもしれません。

皆さんが図書館でよく利用する蔵書検索システム「OPAC(オーパック)」もその一部です。また、図書館システムは利用者の利便性を向上させるためにさまざまなサービスと連携しています。

さらに蔵書や利用者情報を管理するための図書館員の基幹的な業務システムでもあります。

今号では、多くの方が利用している図書館システムについてご紹介します。

1. OPAC(Online Public Access Catalog)

図書館の資料をオンラインで検索できるシステムです。学内外問わず、本学所蔵の資料についていつでもどこでも利用することができます。気になるワードを入力して検索したり、資料形態や出版年などの詳細情報で絞り込み検索したりすることも可能です。契約・購読している電子ジャーナルや電子ブックも検索対象に含まれています。

探している資料が本学にない場合、他大学検索や国立国会図書館(NDL)、県内図書館での所蔵も検索する機能があります。

また、マイページにログインすると、借用中の資料や返却期限、借用履歴も確認できます。(図書館利用者登録と大学のUID・パスワードが必要です)

さらに便利な機能として「アラートサービス」があります。当館で継続受入している雑誌の最新号が排架された際に、メールなどで通知を受け取ることができます。

2. スマートフォンアプリ「Ufinity」

本学が採用している図書館システムでは、OPACと同様に蔵書検索ができるスマートフォンアプリ「Ufinity」を利用できます。書誌情報を手元で検索しながら資料を探せるのは非常に便利ですね。

3. 利用者の利便性を向上させるシステム連携

医中誌 Web や PubMed などのデータベースで気になる論文が見つかった際、当館に所蔵があるか「Find it 岩手医大」のアイコンをクリックすると、契約している電子ジャーナルページにアクセスしたり、OPAC で所蔵状況を確認したりすることができます。所蔵がある場合は当館で閲覧可能ですし、所蔵がない場合は OPAC 画面から学外文献依頼(外部図書館からの取り寄せ・貸出)が可能です。

また、自宅や出張先など学外から電子ジャーナルやデータベースを利用したいときには、リモートアクセスが便利です。リモートアクセスシステムや学内認証サーバ(UID・パスワードでのログイン)と連携しているため利用可能となっています。

4. 業務システムの一面

これらのサービスを維持するためには、図書館員のバックオフィス業務を支える基幹システムが必要です。例えば資料の貸出・返却の手続き、図書や雑誌などの購入や資料情報の管理、利用者情報の管理などを行います。また、国立情報学研究所(NII)のシステムと連携し、全国の図書館に所蔵されている図書や雑誌などの資料情報を相互に利用したり、利用者が希望する文献を学外の図書館に複写・借用依頼したりする際にも活用されています。

このように、図書館運営に不可欠な機能を備え、また様々なシステムや外部機関と連携しています。今後も利用しやすい環境を整えるために維持・管理に努めて参ります。

掲載した機能以外にも、皆さんに役立つ機能があるかもしれません。使い方に関してはお気軽に図書館員にご相談ください。

図書館のトリビア

OPAC で図書を検索したときに表示される書影(表紙画像)をクリックすると Amazon の商品情報ページに移動します。OPAC では確認できないあらすじ、価格、カスタマーレビューを閲覧できます。書影が表示されているものに限ますが、気になる図書がある際に試してみてはいかがでしょうか。

メールマガジンに関するご意見・ご質問は、図書館 tosh@j.iwate-med.ac.jp まで。

＜編集・発行＞ 岩手医科大学附属図書館